

# 2020年度 決算概要

2021年5月12日  
デンカ株式会社

## 1. 業績

(単位:億円)

	2019年度 通期実績 (4-3月)	2020年度 通期実績 (4-3月)	増 減	2021年度 第2四半期予想 (4-9月)	2021年度 通期予想 (4-3月)
売上高	3,808	3,544	△ 264	1,750	3,650
営業利益	316	347	31	190	420
経常利益	300	321	21	170	390
親会社株主に帰属する当期純利益	227	228	1	130	290

## 2. 総括(前年同期比)

- ・当社グループは、企業理念“The Denka Value”を実現すべく、3つの成長ビジョン「スペシャリティの融合体」「持続的成長」「健全な成長」を掲げ、2018年度より5か年の経営計画「Denka Value-Up」における2つの成長戦略「事業ポートフォリオの変革」と「革新的プロセスの導入」を推進し、業容の拡大と収益性向上に注力しております。
- ・この結果、当期の業績は、電子・先端プロダクツ製品の伸長やヘルスケア分野での新製品の寄与がありましたが、全体的には世界的な景気後退による需要減のため販売数量が減少しました。また、一部の製品では原材料価格の下落に応じた販売価格の見直しがあり、売上高は264億円減収の3,544億円(前年同期比6.9%減)となりました。

利益面では、新型コロナウイルス抗原迅速診断キットの出荷が大きく貢献したことに加え、xEV・半導体関連製品をはじめとする環境・エネルギー分野の需要伸長や固定費の削減などにより、営業利益は前年に比べて31億円増益の347億円(同9.9%増)となり、過去最高益を更新しました。経常利益は321億円(同7.0%増)、親会社株主に帰属する当期純利益228億円(同0.4%増)とそれぞれ増益となりました。

## 3. 2021年度予想

- ・2021年度は、前年に新型コロナウイルスによる影響を大きく受けたクロロブレンゴムをはじめとする基盤事業の需要回復や、xEV・半導体・5G通信・再生可能エネルギーなどの環境・エネルギー分野の更なる需要伸長を想定しています。これらのことから、営業利益は前年度の347億円を大きく上回る420億円と、2期連続の過去最高益更新を見込みます。また、経常利益390億円、親会社株主に帰属する当期純利益290億円とし、いずれも過去最高益更新を見込みます。

## 4. 参考数値・前提

	2019年度 通期実績	2020年度 通期実績	増 減	2021年度 第2四半期予想	2021年度 通期予想
投資	369	423	54	220	430
減価償却費	225	229	4	115	235
研究開発費	150	147	△ 3	80	160
有利子負債残高	1,343	1,382	39	1,380	1,370

	2019年度 通期実績	2020年度 通期実績	2021年度 第2四半期予想	2021年度 通期予想
為替レート[円/\$]	109.1	105.8	108.0	108.0
国産ナフサ[円/k1]	42,650	31,800	46,000	46,000

## 5. セグメント別状況(前年同期比)

- ・ エラストマー・機能樹脂部門は、クロロプレンゴムの需要が新型コロナウイルスの影響により大幅に落ち込んだため、減益となりました。しかしながら期後半からは、需要の回復傾向が継続しております。また、TV やモニターの導光板用途の MS 樹脂は好調な出荷が続いております。
- ・ インフラ・ソーシャルソリューション部門は、改定した価格の維持が寄与しましたが、セメントや特殊混和材、肥料、耐火物・鉄鋼用材料の販売が、感染症に加え天候不順の影響を受けたことから、前年を下回ったことなどにより、減益となりました。
- ・ 電子・先端プロダクツ部門は、5G 関連やデータセンターの世界的な需要拡大で堅調な電子部品・半導体搬送用部材の高機能フィルムや半導体封止材向け溶融シリカファイバー、また xEV 関連の球状アルミナ、高純度導電性カーボンブラックの販売が前年を上回り、増益となりました。
- ・ 生活・環境プロダクツ部門は、感染症の影響を受けたプラスチック雨どいおよび合繊かつら用原糸“トヨカロン”、工業用テープの需要が回復基調にあるものの、販売数量は前年を下回りました。一方、テイクアウト需要の増加により、食品包材用シートおよびその加工品の販売は概ね堅調に推移し、原材料価格の下落や固定費削減が寄与したことなどにより、前年比増益となりました。
- ・ ライフイノベーション部門は、インフルエンザ診断キットの出荷が前年を下回りました。一方、インフルエンザワクチンは、早くから専門家や行政から予防接種が推奨されていたこともあり、昨年を上回る出荷となりました。加えて、8月に新型コロナウイルス抗原迅速診断キット“クイックナビ™ -COVID19 Ag”の販売を開始し、営業利益は、前年比大幅な増益となりました。

連結売上高・営業利益(実績・予想)		2019年度 通期実績	2020年度 通期実績	増 減
エラストマー・ 機能樹脂	売上高	1,493	1,243	△ 250
	営業利益	109	44	△ 65
インフラ・ソーシャル ソリューション	売上高	548	505	△ 43
	営業利益	3	△ 5	△ 8
電子・先端 プロダクツ	売上高	680	712	32
	営業利益	124	140	16
生活・環境 プロダクツ	売上高	370	334	△ 35
	営業利益	1	12	11
ライフ イノベーション	売上高	355	429	74
	営業利益	70	148	79
その他・ 消去差	売上高	362	320	△ 42
	営業利益	9	8	△ 1
合計	売上高	3,808	3,544	△ 264
	営業利益	316	347	31

	売 上 高				
	2019年度 通期実績	2020年度 通期実績	増 減	増 減	
				販売価格差	数量差
エラストマー・機能樹脂	1,493	1,243	△ 250	△ 190	△ 60
インフラ・ソーシャルソリューション	548	505	△ 43	4	△ 46
電子・先端プロダクツ	680	712	32	△ 21	53
生活・環境プロダクツ	370	334	△ 35	△ 15	△ 20
ライフイノベーション	355	429	74	△ 1	75
その他	362	320	△ 42	-	△ 42
合計	3,808	3,544	△ 264	△ 224	△ 40

	営 業 利 益					
	2019年度 通期実績	2020年度 通期実績	増 減	増 減		
				販売価格差	数量差	コスト差
エラストマー・機能樹脂	109	44	△ 65	△ 190	△ 32	158
インフラ・ソーシャルソリューション	3	△ 5	△ 8	4	△ 13	2
電子・先端プロダクツ	124	140	16	△ 21	35	2
生活・環境プロダクツ	1	12	11	△ 15	△ 9	35
ライフイノベーション	70	148	79	△ 1	86	△ 6
その他・消去差	9	8	△ 1	-	△ 1	0
合計	316	347	31	△ 224	65	190

## 6. 報告セグメント区分の変更

・2021年4月1日付で、従来の5事業部門体制を4事業部門体制に組織改定したことに伴い、2021年度より報告セグメントの区分を以下の通り、変更しております。

旧セグメント	新セグメント	主要製品
エラストマー・機能樹脂	電子・先端プロダクツ	熔融シリカ、ファインセラミックス、アセチレンブラック、電子回路基板、電子包装材料 ほか
インフラ・ソーシャルソリューション		
電子・先端プロダクツ	ライフイノベーション	ワクチン、関節機能改善剤、診断薬 ほか
生活・環境プロダクツ	エラストマー・インフラソリューション	クロロプレンゴム、セメント、特殊混和材、肥料、カーバイド、耐火物、環境資材 ほか
ライフイノベーション	ポリマーソリューション	スチレンモノマー、ポリスチレン樹脂、ABS樹脂、クリアレン、耐熱・透明樹脂、ポパール、食品包装材料、住設資材、産業資材 ほか
その他	その他	商社、エンジニアリング

なお、変更後のセグメントにおける2021年度の売上高、営業利益に関する情報は以下の通りです。

連結売上高・営業利益(実績・予想)		2020年度 通期実績	2021年度 通期予想	増 減	2021年度 第2四半期予想
電子・先端プロダクツ	売上高	777	850	73	420
	営業利益	142	170	28	80
ライフイノベーション	売上高	429	400	△ 29	180
	営業利益	148	105	△ 43	50
エラストマー・インフラソリューション	売上高	918	1,050	131	500
	営業利益	△ 36	40	76	10
ポリマーソリューション	売上高	1,099	1,250	151	600
	営業利益	84	95	11	45
その他・消去差	売上高	320	100	(※)△ 220	50
	営業利益	8	10	2	5
合計	売上高	3,544	3,650	106	1,750
	営業利益	347	420	73	190

(※)グループ商社に収益認識に関する会計基準を適用した影響を含む